

研究課題名	胃切除後の膵外分泌機能不全に対するリパクレオンの有効性を検討するための研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器・移植外科学 教授 大段秀樹
研究期間	2022年1月13日(倫理委員会承認後)～2022年9月30日
対象者	2022年1月13日(承認日)～2021年9月30日の間に、当科で胃切除を行い、膵外分泌機能不全に対してリパクレオンが投与された20歳以上の方。
意義・目的	<p>胃切除後障害は、体重減少を引き起こし、身体活動の低下につながり、体重減少が強い症例は術後抗癌剤の継続性や、予後が悪くなるという報告があり、また、生活の質も落ちるといことも報告されています。胃切除後障害の症状の一部は膵臓の外分泌機能不全が原因となっていると考えられており、膵酵素補充療法の有用性が期待されます。そのうちの一つであるリパクレオンは、高力価であるのが特徴で、膵癌術後の膵外分泌機能不全に対しては、頻用されています。しかしながら、これまでの胃切除後の膵外分泌機能不全に対するリパクレオンの有用性に関する報告は、いずれも少数例の報告が多く、十分に有用性が確立されているとは言えません。</p> <p>本研究は、多施設(他病院)と連携して治療データを集積し、胃切除後の膵外分泌機能不全に対するリパクレオンの有効性を解析、検証することを目的とします。</p> <p>膵外分泌機能不全による消化吸収不良を改善し、胃癌術後の体重減少を抑制することで、術後補助化学療法の忍容性を上げ、術後のサルコペニアなどの身体活動性の低下を抑制することができれば、ひいては、胃癌の治療成績向上や術後の生活の質の改善に寄与できると考えています。</p>
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)情報と診療で行ったアンケートを用いて行います。</p> <p>カルテから使用する内容は身長、体重、性別、血液検査、手術情報、抗癌剤の使用状況などです。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p> <p>個人が特定できる情報を削除した上で、代表機関である東広島医療センターに提供します。</p>
共同研究機関	<p>代表機関：東広島医療センター(研究責任者 堀田龍一)が解析します。</p> <p>安佐市民病院 徳本憲昭 尾道総合病院 藤國宣明 呉医療センター 鈴木崇久 県立広島病院 三隅俊博 中国労災病院 福田 敏勝 広島記念病院 豊田 和宏 JA 広島総合病院 杉山 陽一 JR 広島病院 志々田 将幸 吉田総合病院 児玉 真也</p>

市立三次中央病院 岡野 圭介

試料・情報の管理責任者

東広島医療センター 堀田龍一

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Te l : 082-257-5222

広島大学病院防府消化器病センター内視鏡外科講座 職名 助教 佐伯 吉弘

研究機関：広島大学